

1989年度シンポジウム討論要旨

「北方圏における家畜管理－(3)」

1989年度のシンポジウムは、「北方圏における家畜管理－(3)」と題して、1990年2月9日午後1時から北大農学部において、中国から来日した4名の研究者を招き開催された。朝日田康司氏(北大農)、西埜進氏(酪農大)を座長とし、呉精華氏(中国牧地区における牧畜経済論：中国社会科学院農村発展研究所)、甫爾加甫氏(新疆ウイグル自治区の牧畜業の現状と課題：新疆八一農学院農業経済学部)、于鉄夫氏(内モンゴル自治区における牧畜地区業の現状と今後の課題：中国内モンゴル畜政局)、源馬琢磨氏(蒙新高原区の牧畜と飼料生産：帯畜大)の話題提供ならびに参加者による討論が行われた。以下の要旨は当日の討論を取りまとめたものである。

座長(西埜)：総合討論はいる前に、各先生方に対して取りこぼした質問がございましたら、まとめの意味でこれから質問を受け付けたいと思います。

岡本(滝川畜試) 新疆ウイグル自治区のお話の中で、冬期に家畜がたくさん死ぬということについて第9の課題ということでまとめておられますが、これはどういう家畜が死ぬのか、親なのか子供なのか、生まれたばかりの家畜なのかということを質問します。それから家畜が死ぬ原因は寒さだけなのか、あるいは食べる草がなくて死ぬのか、それとも寒さと食べるものがないことの両方が原因でこういうことが起こるのか、お聞きしたいとおもいます。それから、同様な事故が、内モンゴル自治区で起きているのかどうかお願いします。

甫爾加甫：冬期に家畜を収容する畜舎があまり

ありません。たとえば、新疆ウイグル自治区の北部の牧畜業地域では、畜舎を建設し、家畜を畜舎内で飼養したいと考えています。しかし、家畜の飼養頭数やその種類が多く、それらをすべて収容できる畜舎の建設は困難です。畜舎を作っていた農家の家畜は、冬期間の死亡しないということがあります。この原因としては、降雪地帯では、草地の草が雪に埋もれてしまいます。山羊や牛は雪の下にある草を採食しますが、羊は採食できません。そこで、農民は子供も含め全員で、雪の除去にあたります。そのような作業を、200～300頭の家畜を飼養できる面積について行うわけですから、1家族の労働量としては相当なものになります。当然、十分な除雪作業も行えない場合もあります。さらに、きびしい寒さと風などの影響で、夏に太った家畜も死亡してしまうわけです。さらに、一度に多くの羊が分娩をむかえ、さらに春先の寒さが重なると、家族労働力ではその介護が不足することから、死亡するということが起こります。

于鉄夫：内モンゴでも同じ様な現象があります。家畜生産あるいは草地生産は、ほとんど自然に依存していますから、冬あるいは夏に雪や雨が多ければ問題はないですが、これらが少ないと牧草の生産量が少ないため家畜が多く死にます。現在は、そういった自然災害を防ぐため、かんがい施設の設置や草地の改良を行っています。その割合はまだ高くありません。1947年の解放後、1987年までの間で、年間約140万頭の家畜が死んでいます。最近では、かんがい施設や草地の改良によって、1989年の死亡頭数は約10万頭まで減少しています。年間で3月から4月が、

最も死亡する家畜の多い季節であります。

甫爾加甫：新疆ウイグル自治区での冬期収容施設について補足させていただきます。会報の28ページの上の写真は、冬期、家畜を収容する畜舎です。天井のないこのような畜舎でも、風から家畜を守るのに役だっています。それから、18ページの写真は、比較的金銭的に余裕のある遊牧民が持っている畜舎です。

小松（東農大）：家畜の数がかなり増えてきて、過剰放牧の問題が大きくなってきたと思います。家畜の増えた頭数を維持するために、過剰放牧を抑えなければならないのですが、内蒙古と新疆ウイグル自治区で具体的な対策にどのようなことがおこなわれているかについておうかがいしたいと思います。もう一つは、過剰放牧を抑える手段として天然草地の改良ということがあげられると思いますが、天然草地の改良についての具体的な方策についてお聞かせ願えればありがたいと思います。

于：内蒙古では、第16次計画として、草地利用全般について計画をたてて合理的に草地を利用すること、草地の保護を強化することが計画されています。政策としては、1978年から共同草地を戸別に分配いたしました。それによって、草地に対する管理保護の積極性が、各農家にあらわれています。法律としては、内蒙古では草原法と草地管理条例が制定されています。法律の規定によると、草地では勝手に開墾することや薬剤の散布が禁止されています。草地での病虫害防止についても取り組まれています。国の補助をもとにした草地の改良も行われています。具体的には、灌水用の井戸を掘ったり、牧草の種を蒔いたり、牧柵の設置などが行われています。そのほかに、飼料の利用性を高めるため、飼料の加工についても計画されています。そのほかにも草地のかんがい施設や施肥などに

ついても増加させる方向で検討されています。

西埜：質問はこのくらいにして、これからは、皆さん方あるいは中国の方からの意見をいただきたいと思います。そのためにはきっかけを作らなければならないものですから、まず、源馬先生に問題を提起してもらいたいと思います。源馬先生よろしくお願い致します。源馬先生が42ページに牧畜業発展の方向ということで、いろいろ書かれているわけですが、これを説明していただいて、中国の方の意見も聞き、また日本の方の意見もおうかがいしたいと思います。源馬：家畜のことにつきましては、先ほども申し上げましたように、詳しいことは申し上げられませんが、一つはめん羊を中心に徹底的に天然草地を利用して牧畜を行うという方向があります。これは中国の方針のようでありまして、ここに書きましたのは、中国畜牧業総合区画というものに書かれています。牛であります。牛は南疆では牛を多く飼っておりますが、ここでは肉畜兼用型を発展させるという方針があるようです。それから都市近郊では、乳用あるいは乳肉兼用種を発展させるということのようです。先ほどから、有名な品種がたくさんありまして、三川牛だとか新疆褐牛だとか、草原紅牛といった牛を中心にして発展させて、要するに商品として、国内に販売していこうとしているようであります。それから、山羊とらくだであります。山羊というのは環境に悪いところに適した動物のようでありまして、新疆の西の方に多く飼われているようであります。これは、毛肉兼用です。らくだも同じです。中国も昔は、ろばや馬やらくだは、運搬用に多く使われていましたが、運搬が機械化されるにしたがって、徐々に役畜の効用が失われてきているようであります。今後は、役畜に使われていた家畜を何に利用しようかということが課題である

うと思います。それから、豚ですが、このあたりでは穀物があまりとれませんので、都市近郊に限定するというのであります。次に草地でありますけれども、先ほどご説明がありましたように、人工草地は、中国全体でわずか1%あるいは1.4%と、面積的にはほんのわずかでしかありません。計画としましては、2000年までに、人工草地の面積を、天然草地の10%にするという計画があります。現実のところ、内蒙古でみられるように、草地として家畜を放牧できるのは、汚れてきた草地の半分程度ということで、荒漠が広がっているというのが実状のようであります。大学などで試験的には、草種の改良とか導入草種の栽培とかいったところが行われているようであります。しかし、大変面積が大きいものですから、なかなか思うように、進行していないようであります。それから、もう一つ農・牧・林の結合発展、44ページに書いておきましたけれども、農業地区と牧畜地区と林業地区をなんとか結び合わせようと言う問題につきましては、うまくいっていないようであります。農業と牧畜との対立ということは、さきほどからたびたびお話に出てきておりましたし、森林は、もともと貧弱であります。これは燃料に使われてしまって、丸坊主になってしまっています。文化大革命の時に、新疆では人工植林したところが伐採の対象となったということです。基本といたしましては、教科書に書いてありますように、いろいろなところのバランスをとりながら、行っていくということが原則であるようです。しかし、急速に変革する時代の問題は、教育レベルの低さ、甬爾加甬さんのお話にもありましたように馬の上で小学校を終えたような状況もありまして、遊牧生活ですと学校に行けず、それにより文盲が増えるということにあるようです。それから、

大学に入る人は、最近が増えてきているようでもあります。かつては非常に少ない人数であったようで、中国の草原研究者がわずか千人で、研究者一人当りの草地面積が30万haにもなるというようなことが書いてありまして、牧畜には直接関係ありませんが基礎的な、教育という問題から発展させていかなければならないと思います。そのことについては、中国ではすでに気付かれているようでありまして、立体的に農業を発展させる計画をお持ちになっているようです。

呉：牧畜業発展の方向についての考え方のひとつを申し上げます。まず、牧畜全体の品種構造については、豚などの抑制をして、草食動物を増やすという問題があります。農業地区については、長い年月をかけて、豚を減少させ草食動物を若干増加させることを考えています。

西埜：源馬先生の発言あるいは中国の方のお話に対して意見がありましたら述べて下さい。

阿部（滝川畜試）：意見といたしましても、なにせ、中国の状況というのは、日本とはまるで違うだろうと思うわけです。本日お話をお伺いしましても、まだまだ聞かなければいけないようなことがあるわけです。ですから、意見ではなくて、やはりもう少し、質問させていただきたいと思います。改革が進んで人民公社が解体されて、家畜は個人所有になったようです。一方利用する土地はどうなっているのか、場所による草地の善し悪しがあると思いますが、誰がどこを使うのかというような、利用管理の仕組みや、それをコントロールする機関についてお聞かせ願います。改革前ですと、公社などが行っていたのではないかと思うわけですが、それが現在はどうのような仕組みになっているのか、そのことを質問させていただきます。

于：まず家畜を家族に分配し、1978年以降、草

地については、草量と家族の人数を両方を基準として分配しています。草地には水とか草のはえかたといった条件でさまざまな場所があります。そういったさまざまな条件の土地を、できるだけ1戸1戸に分配するのですけれども、分配できない土地は、共同経営農家に対して分配しています。草地の利用については、草地管理を行うために、昨年から内蒙古では有償使用としています。つまり、草地に等級をつけて、ある草地で飼養可能な頭数の基準を設けて、その基準に達している人には賞をあげるとか、その基準に達していない人あるいは過剰放牧になっている農家については、罰金を課しています。そういうことが全国的にも、まだ、試験的ですが行われるようになっていきます。その罰金については、草地管理費としてつかわれています。次に、畜産の発展方向についてのお話ですが、私は行政の方の仕事をしていますので、全国的な話ではありませんが、内蒙古について何点か申し上げます。牧畜業は、伝統的な牧畜業から近代的な牧畜業へ発展させる必要があります。具体的には、農業地区、半農業地区、都市近郊のようなところで、もともとが畜産が副業として行われているような地区で、それを主産業として発展させ、独立させ、集約経営を行わせるということです。このような変化のためには、いくつかの基準があります。まず1つめは、優良品種を使うこと、適正な規模に達していること、近代的な施設を建設しつつあることという基準です。特に、牧畜では自然に依存している面から脱しつつ、人工的に放牧できるような方向に発展させるべきだと思います。具体的な内容としては、かんがい施設の建設、牧草の種蒔、飼料の加工処理などがあげられます。遊牧から、漸次、定住させ、それによって牧畜を建設させることが重要だと思います。そういった転換は、

現在進行しているところです。

西莚：3人の中国の先生方はいずれも、草地生産力の年度間だとか季節間のギャップを訴えているわけです。源馬先生は、その場合家畜を減らしてはどうかとおっしゃっているわけです。そのことについて日本側のほうから、何か意見がありましたらお願いします。

大泰司（北大歯学部）：今の于先生の意見と反対の意見を持っていますので、その意見を述べてさせていただきます。私は、1986年から毎年、チベット高原で動物の調査をしておりまして、そのときにチベット遊牧をみてきました。それでも一番の問題は草地の退化で、内蒙古も新疆もチベット高原もそうですけれども、雨量が少ないということと、寒いということで、草はぎりぎりのきびしい状況下ではえて、草でないところは砂漠になるわけです。ところが、解放後、つまり中国の革命後、人口が大量に流出して、森林の伐採と鉱山の開発が始まって、人口は3倍になって、家畜の数は2倍、内蒙古は6倍とっているようです。新疆は7%程度砂漠化したと、チベット高原の場合は20%近く、内蒙古の場合も、おそらく高率での砂漠化が進んでいることだろうと思います。私の意見としては、現在の一番の課題は、人工草地をたくさん作るというよりも、天然草地をこれ以上砂漠化させないことだと思います。人民公社ができるまでの間、例えばチベット族の場合は、踏みつけによる草の枯死が多いわけですがけれども、踏みつけを防ぐために非常に合理的な、先祖伝来の遊牧の仕方をしているわけです。さらに、品種改良も工夫して、常に新しい血を入れて、改良を進めていたわけです。しかし、人民公社になってから、それが行われなくなって、そのことが砂漠化を促進した原因となったわけです。結論としては、于先生は伝統的な方式から、近代的

な方式に発展させたいとおっしゃいました。さらに、自然に頼る方法から、人工的な方法に変化させるとおっしゃいました。私は、まったくこれに対立するわけではないんですけども、むしろ遊牧民が行ってきた伝統的な方法から学ぶことも重要ではないかと思うわけです。遊牧民の歴史は、3000年にも及ぶわけですから、細かく家畜の管理や草地の管理など、いろいろな項目についての技術を持っています。もう一つは、畜肉の生産量は、今の状況では降水量で決まるわけですから、急に人工的にするよりも、自然をよく見て、森林の伐採や鉱山の乱開発がもたらした草地の砂漠化を防ぐようにする必要がありますと思うわけです。

于：全体的にいいますと、先生のおっしゃったことと私の言ったこととは、それほど矛盾していないと思います。中国の伝統的な遊牧業では、合理的な面がある反面、それを自然に依存し過ぎている面もあります。合理的な一面としては、

現在私達が考えている草地の輪牧というやり方と似ていると思います。不合理な面としては、自然に依存し過ぎている面であります。私が申し上げた伝統的牧畜業から近代的牧畜業への転換ということは、伝統的な牧畜業の不合理な面、つまり自然に依存して、雨の多い年は生産が高く、干ばつの年には生産量が低いというような面を改善するということです。具体的には、草地の改良やかんがい施設の建設などを計画しています。草地の退化などの原因や退化の程度は、家畜生産が、ほとんど草地のみで行われているというのが原因だとも思います。

座長：大変重要な問題についての討論ですが、決められた時間をすでに超過しておりますので、大変残念ですが討論をこれで打ち切らせていただきます。どうもありがとうございました。

(拍手)

(文責 森田 茂)